

朝日新聞社・上智大学共催シンポジウム

世界遺産と生きる

日本が果たすべき役割

世界遺産の数は今や800を上回ります。島根県の石見銀山が加わり、日本の世界遺産も14になりました。登録数はこれからも膨れあがりそうです。一方で、紛争や災害で危機に瀕している遺産もあります。ソフトパワーを蓄えてきた日本が世界遺産の保存と活用の面で、貢献できることは少なくありません。今、日本が果たすべき役割とは何か。講演やパネル討論を通して、多様な視点から考えます。

- 基調講演** 青木 保（文化庁長官）
石澤良昭（上智大学学長）
- 討 論** 稲葉信子（東京文化財研究所国際企画情報研究室長）
鈴木恒夫（衆議院議員）
田口ランディ（作家）
前田耕作（和光大学名誉教授・アジア文化史）
司会 = 隈元信一（朝日新聞論説委員）

日時：2008年1月12日（土）
午後2時～5時
開場 午後1時30分

場所：上智大学10号館講堂
無料

主催：朝日新聞社、上智大学
後援：文化庁、外務省
協力：文化遺産国際協力コンソーシアム
トンボの眼（ミニコミ誌）



聴講をご希望の方はアサヒ・コム <http://www.asahi.com/sympo/> から
お申し込みください。